



環境学の

授業探見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。



【今回の授業】組織環境論Ⅰ 社会環境学専攻 涌田幸宏先生



「スタートアップ創出元年」と位置づけ、勢いのあるスタートアップ企業の育成をめざす日本。名古屋大学でも、東海地区国立5大学で始めた起業家育成プロジェクト「Tongali(とんがり)」を実施し、アイデアピッチコンテストでは熱い戦いが繰り広げられています。そうした中、涌田先生の授業は、「起業とサステナブル・アントレプレナーシップ(持続可能な企業家活動)」をテーマに、欧米で増えつつある「サステナブル・アントレプレナーシップ」について、海外の論文を読み研究動向を共有しながら、それを

取り巻く社会・経済について議論することをねらいとしています。「Z世代の出現で意識も変わり、社会的な課題を解決しようとする人たちも増えてくるでしょう。でも企業家だけを単体として見るのではなく、それを支援する人や金融システムについての理解が必要」と涌田先生。

時には、実際に起業した方をゲストに招き、起業した動機や事業内容について話を聞いたり、学生自身が、自分の国の社会的課題を挙げて、その解決策を発表することで問題解決の糸口を探る機会を設けることも。「実際に起業を勤めているわけではないですが、どのように解決するか(How)だけではなく、そもそも何が問題で(What)、なぜこのようなことになっているのか(Why)を突き詰めることが大事。まさにこれがアントレプレナーの精神で、こういう思考パターンはどんな場面でも役に立つと思います」。社会問題や環境問題について課題を見出し、解決に取り組む視点は、ますます求められていきます。



学生ボランティアと福祉施設のマッチングで起業したmusunの鈴木萌芽さんがプレゼン



劉欣怡さん リュウ シンイ
社会環境学専攻
博士前期課程1年

この授業では、サステナビリティや起業家精神に関する経営組織論、社会起業家精神に関する経営学の知識を学ぶことができます。授業では、指定された論文について順番に発表し、質疑応答や討論を行う形式で進められます。このアプローチは、論文の内容を深く理解するだけでなく、教員や他の学生との思考的つながりを築くにも役立ちます。

先生が起業した学生を招待して経験を共有する授業は、私に深い印象を与えました。同じ年齢でありながら、既に学んだ理論を実践に移している学生がいることを知り、驚きました。皆さんの話を聞くことで、人生には様々な可能性があることを知りました。このような授業は非常に意義深く、重要だと感じています。



劉乃豪さん リュウ ナイゴウ
社会環境学専攻
博士前期課程1年

この授業では、サステナブル・アントレプレナーシップについて、会社ビジネスモデルの変化から業界共通の意識までトータルで学びました。論文を要約して発表し、先生と受講生たちと討論しながら進んでいく形で、みんなの考え方で知ることができて、自分にとって吸収できることが多いところが魅力的です。また、私の研究では、環境規制と製造業の生産性の関係の実証分析を行っています。環境規制に対して、業界共通の意識が動いているかもしれないので、今後リーディングカンパニーの行動について分析したいと考えています。